

テクネ・マクラ「芸術は永し」

TEXNH MAKPA

女子美術大学歴史資料室ニュースレター

第 3 号



私立女子美術学校 菊坂校舎 明治42年（1909）7月

寄贈報告

私立女子美術学校初期資料寄贈報告

遠藤 九郎

2010年11月、大竹一弘氏（福島県伊達市）より、私立女子美術学校（現女子美術大学）の校主・校長を務めた佐藤志津および佐藤進に関する書簡・葉書等29件をご寄贈いただきました（4頁に御寄贈資料一覧を掲載）。2010年6月、175周年史編纂・調査をされていた順天堂大学医史学研究室のご紹介で、大竹氏所有の佐藤志津・進の書簡を拝見させていただきました。これらの資料は大竹氏のご厚意により、このたび女子美術大学歴史資料室へご寄贈いただくことになりました。

図1は、校主佐藤志津、校長藤田文蔵、舎監横井玉子の三者の名前で差し出されたもので、私立女子美術学校新校舎建設のための寄付を求める書簡です。文中には学生数がすでに250名を超えており、現在の「仮校舎」

では新たな入学生を受け入れることができない当時の事情が書かれています。

同校は、明治33年（1900）10月、学校設立の認可を受け、創立に至りました。この時、尽力した発起人は横井玉子と藤田文蔵（初代校長）他2名でした。しかし、入学生が少ないため、翌年に経営の危機が訪れました。玉子・文蔵は、順天堂院長夫人であった佐藤志津に協力を求め、明治34年（1901）11月、志津との間に誓約書を交わし、学校経営を志津の手に委ねました。翌35年1月、志津は正式に私立女子美術学校校主となりました。図1の資料は、「明治35年」と記載されており、志津が校主に就任した後のものと思われます。この頃、急激な生徒数の増加により新校舎が必要になったため、図1のような書簡を作成

し、寄付者を求めることとなったのでしょう。「賛成員」には著名な教育家、政治家、実業家の名前が並んでいます。この書簡に添付されたのが「女子美術学校寄附金募集手続」(図2)です。

これらの資料の詳細、また、他の寄贈資料については今後調査した上で、随時本誌等にて紹介していきます。

貴重な資料をご寄贈いただいた大竹一弘氏に深く御礼申し上げます。また、今回ご協力いただいた酒井シヅ先生（順天堂大学名誉教授・特任教授（医学部医史学））、川合武司先生（武蔵丘短期大学学長）、西尾研一様（志津の父佐藤尚中の弟子・西尾元詢の末裔）に御礼申し上げます。

（110周年記念事業担当調査役）

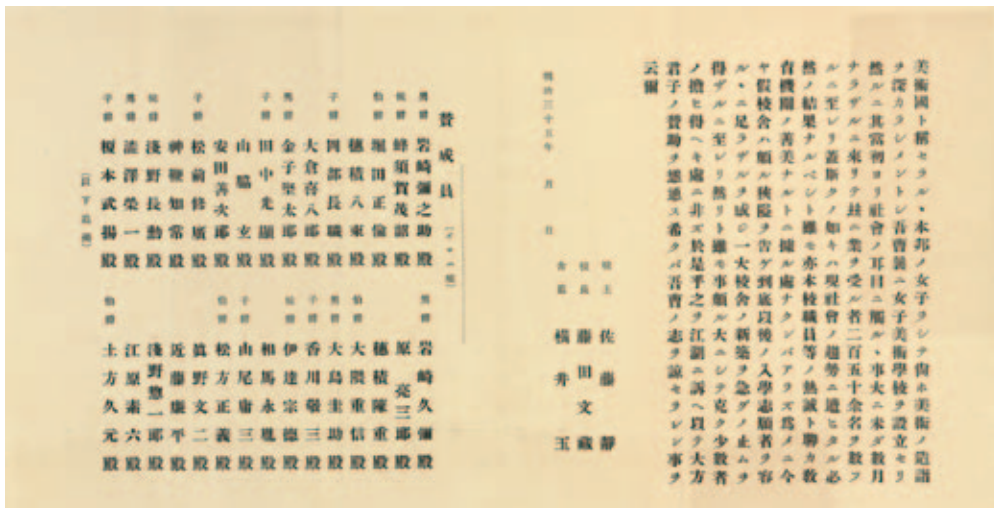


図1 大竹権右衛門氏に送られた新校舎建設のための寄付を求める書簡 明治35年（1902）

大竹一弘氏御寄贈資料一覧

- 1 女子美術学校規則
- 2 女子美術学校寄付金募集手続
- 3 佐藤志津他より大竹権右衛門への書簡 明治35年
- 4 佐藤静子（志津）より大竹権右衛門への書簡 明治41年10月
- 5 佐藤進より大竹権右衛門への書簡 明治35年2月
- 6 佐藤進より大竹権右衛門への書簡 明治45年4月
- 7 佐藤静子（志津）より大竹権右衛門への葉書 明治35年2月
- 8 佐藤進より大竹権右衛門への書簡
- 9 佐藤静子（志津）より大竹権右衛門への書簡 明治35年4月
- 10 佐藤進より大竹権右衛門への書簡 明治39年2月
- 11 佐藤進より大竹権右衛門への書簡 明治28年9月
- 12 佐藤静子（志津）より大竹権右衛門への葉書 明治35年2月
- 13 佐藤進から大竹権右衛門への年賀状 明治30年1月
- 14 佐藤進から大竹権右衛門への年賀状 明治34年1月
- 15 佐藤進から大竹権右衛門への年賀状 明治35年1月
- 16 佐藤進執事から大竹権右衛門への葉書 明治37年12月
- 17 佐藤静子（志津）から大竹権右衛門への葉書 明治38年1月
- 18 佐藤進・静子（志津）から大竹権右衛門への年賀状 明治40年1月
- 19 佐藤進・静子（志津）から大竹権右衛門への年賀状 明治42年1月
- 20 佐藤進・静子（志津）から大竹権右衛門への年賀状 明治43年1月
- 21 佐藤進から大竹権右衛門への年賀状
- 22 佐藤恒久から大竹権右衛門への年賀状 明治32年1月
- 23 佐藤恒久から大竹権右衛門への年賀状 明治33年1月
- 24 佐藤恒久から大竹権右衛門への年賀状 明治34年1月
- 25 佐藤恒久から大竹権右衛門への年賀状 明治35年1月
- 26 佐藤恒久から大竹権右衛門への年賀状 明治38年1月
- 27 佐藤恒久から大竹権右衛門への年賀状 明治39年1月
- 28 佐藤恒久から大竹権右衛門への年賀状 明治40年1月
- 29 佐藤恒久から大竹権右衛門への年賀状



図2 私立女子美術学校寄付金募集手続 明治35年（1902）

女子美生のはなし

犬塚 きぬ イギリス・フランスで絵画修行した明治期の卒業生

吉田 麻里



今回は、「女子美生のはなし」第1回目にご紹介した足助恒先生と同級生の岩下（旧姓犬塚）きぬさんをご紹介します。

犬塚きぬさんは、明治18年（1885）1月17日に当時の上流階級にあたる家庭、犬塚駒吉氏の末娘として東京で生まれました。優秀な兄や姉に囲まれたきぬさんは、自身も有馬小学校を優秀な成績で卒業した後、私立女子美術学校の西洋画科本科普通科へ進学しました。きぬさんが私立女子美術学校に入学することについては、犬塚家では反対されませんでした。しかしなぜ、私立女子美術学校へ入学したのでしょうか。『明治の令嬢』によると、幼少期より絵画への嗜好が深かったことや、年の離れたお兄さんがロンドンやパリの絵画・音楽に関する書籍や雑誌をきぬさんに見せていたこと、そしてそのお兄さんが私立女子美術学校を勧めたことが書かれています。

このように美術を学ぶ場として純粋に私立女子美術学校へ入学したようですが、実際は、上流階級の手習いの範囲だったのでしょうか。『美術新報』の「犬

塚女史の留學談」では、在学中の様子が当時西洋画を担当していた磯野吉雄先生により語られています。

「…在校中から成績が佳く、第一温厚で玉の如き美はしい性質の人で、本人は藝術に一生を捧げたいと云う志望で、今正に畫室を新築中であるが、両親の情としては矢張り何れか良縁を求めて、と勧めらるゝ、自分などは、どちらとも團扇を掲げかねる、それは本人が藝術に熱心であると同時に、其性質が温和で、良妻としても賢母としても、最も得難き婦人であるから…」と、ここからもきぬさんが真剣に描くことに対して向き合っていたことが伺えます。

明治36年（1903）3月、きぬさんは、西洋学科本科普通科卒業後本科高等科へ進み、明治38年（1905）3月に卒業しました。そして、明治39年（1906）に当時とても珍しいことに単身イギリスへ留学しました。ロンドンでは数か所の学校を見学し、「コープ」氏の画学校に最も長く在籍したようです。また、パリではラファエル・コラン氏とプネリー氏の共同設立学校に

在籍し、イギリスとフランスの指導の違いを肌で感じたようです。

油絵を描くことに没頭していた留学期間は、明治42年（1909）10月に帰国することで終了し、同時に大変残念なことに絵筆を絶つことになりました。シベリア経由で帰国する途中、ハルピンにて岩下氏と結婚したことが大きな理由となったのでしょう。

その後、女子美術大学80周年記念「女流画家展」に風景画と人物画の2点を出品したことや、後輩の亀高文子さんがきぬさんの作品を手元に大切に保管していたことが『女子美術大学80周年史』に記されています。

きぬさんが、筆を絶つことなく描き続けていたら、今どのような画家として名を残していたのか惜しまれます。

参考文献

関巖二郎編『明治の令嬢』文武堂、1902
「犬塚女史の留學談」『美術新報』9巻5号（通巻186号）、1910
女子美術大学編・発行『女子美術大学80周年史』、1980

（美術学科芸術表象専攻助手）

取材レポート

長山はく展を訪ねる —長山昌弘館長インタビュー②

〈インタビュー・文〉 山田 直子

(前号に引き続き、長山はく氏(卒業生・日本画家)について長山昌弘氏にお話を聞きました)

—昭和7年(1932)、第13回帝展で《草原》が特選になりますね。この作品は北白川宮家の所蔵になったといわれていますが、はくさんと北白川家は関係があったのでしょうか。

館長:はくは、昭和4年(1929)から北白川宮家に日本画講師として参殿していました。戦中、作品とともに自宅を焼失させてしまった後、北白川家から寝具一式が送られてきたことがありました。

—戦中、当時はくさんがお住まいになっていた東京の淀橋区(現 新宿区)東大久保の家から手荷物ひとつを持って郷里へ疎開した留守の間に、東京大空襲で全焼し、そのときに作品・画材や書籍も焼失してしまうのですね。さぞ落胆されたことでしょう。

館長:作品は疎開させるつもりでいて、段取りをしてありました。10日後には疎開させる予定でしたが、その前にすべて焼失させてしまいました。日本画材、特に顔料はいいものを集めていたようです。贅沢をしないでやっと集めた画材だったこともあり、相当にショックだったと思います。

—戦後は茨城県内を中心に活動されていますが、東京へ戻るお



長山昌弘館長 長山はく《ひまわり》とともに

つもりはなかったのでしょうか。

館長:当時の東京は女性が独りで住めるところではありませんし、作品や画材を焼いてしまったこともあり、絵をやめようとしていました。そんなとき、同じ松岡映丘先生門下の山口蓬春さんから東京へ戻り、もう一度、絵を描くよう説得の連絡がありました。それを断っていると、そのうち蓬春さんから画材一式が送られてきました。それで描かざるを得なくなり、再び制作をはじめたわけです。

—昭和25年(1950)には、第5回日展に《芍薬》を委嘱出品、その後は茨城県展に出品を続けますね。ここからは晩年のお話になりますが、はくさんが97歳の時、平成2年(1990)に水戸市常

陽藝文センター・ギャラリーにて、その2年後には日立市の椎の広場アウリットにて白寿記念展が開催されます。後者は長山館長が企画されたのですか。

館長:はい、はくは自分の作品に厳しくて、人に見せられるものはないといったのですが、開催が決まると過去の作品十数点に手直しをしました。この《ひまわり》もそうです。また、はくは、「絵は白にはじまり白に終る」と日頃からいっていて、『白の輝き、白い牡丹』を、また、『百歳の紅』を描いたら死んでもよい」といっていました。「生きている」花の命をいかに描くか、これを生涯のテーマにしていたように思います。

—長山館長は、はくさんが亡くなった平成7年(1995)に、財団

歴史資料室日誌 2010年度後期

2010年

10月

○山崎光夫著『二つの星』（講談社）調査等で協力。



○女子美術大学歴史資料室編『女子美術教育と日本の近代 女子美110年の人物史』（日本エディタースクール）出版。



○創立110周年記念事業シンポジウム「現代アジアの女性作家」開催(相模原キャンパス)。企画・運営を担当。



12月

○「女子美術大学創立110周年記念展 Resistance and Obedience —女子美110年、美の指導者たち—」展開催(上野の森美術館)。年表・画像データ提供。



会場写真

法人を設立させ、長山はく記念館を開館されましたが、経緯をお聞かせください。

館長：長山はくの作品を散逸させず、一括して保管し、公開する必要性を感じて設立しましたが、館の維持は非常に大変です。—今回、この角記念美術館で展覧会をされた経緯をお聞かせください。

館長：日立市出身の洋画家で角浩さんという方がおられて、そのご遺族が作品を日立市に寄贈されました。そのことがきっかけで、かつて銀行だったところが「角記念美術館」として開館されました。目玉の企画展をしたいという館の意向があり、私に長山はくの展覧会をするように依頼がありお受けしました。記念館よりもスペースが広いので、普段より多くの作品を展示することができました。

—長山昌弘館長には、長時間にわたりはくさんの身近にいらしたからこそできるお話や、作品を守っていくことの難しさについて語っていただきました。はくさんの作品をより多くの人に見てもらいたいという情熱が伝わるお話ぶりでした。

【謝辞】本報告執筆にあたり三好寛佳氏に履歴・資料について御教示いただきました。心より御礼申し上げます。

(歴史資料室学芸員)

11月

○女子美術大学創立110周年記念式典開催(有楽町朝日ホール)



大村理事長挨拶



佐野学長挨拶

歴史資料室日誌 2011年度

2011年

4月

○基礎学習ゼミ（新1年生受講）
自校史教育に協力（～7月）

5月

○女子美術大学歴史資料室編
『女子美術大学創立110周年記念 略年史 女子美百十年 1900-2010』発行。



○女子美術大学歴史資料室編
『女子美術大学創立110周年記念事業シンポジウム「現代アジアの女性作家」報告書』発行。



6月

○相模原キャンパスにて全国大学史資料協議会東日本部会総会開催。



横山学長挨拶



図書館・女子美アートミュージアム見学



食堂にて情報交換会開催

7月

○足助恒（卒業生・教員）作品調査（栃木県日光市）

9月

○博物館実習担当（2日間）

10月

○創業者祭開催（杉並校舎）

11月

○大村智理事長 講演「学究の志～佐藤志津の女性教育と女子美術大学建学の精神～」(千葉県佐倉市・国立歴史民俗博物館)



○横井玉子先生像・佐藤志津先生像除幕式開催（相模原キャンパス）



○横井和子氏ピアノ演奏会開催（相模原キャンパス 女子美アートミュージアムロビー）



2010年度後期/2011年度 寄贈報告

- 大竹一弘氏 佐藤志津・進書簡等29件
※本誌3頁一覧表参照
- 大柳久栄氏 関千代氏書簡
- 岡田芳朗氏 女子美術学校規則
- 茅根静子氏 『女子美術学校・佐藤高等女学校 卒業記念帖』1920年
- 広瀬晴美氏 『世界画報』第25巻第2号
- 福田豊穂氏 女子美術大学設計図面
(福田良一氏設計) 等24件
- 松本博子氏 女子美術大学校舎ポストカード(1966年)
- 山下茂穂氏 『同窓会報』第11号等9件

2011年度 歴史資料整備委員会委員紹介

- 委員長 原 聖 (芸術学部教授)
広瀬きよみ (芸術学部教授)
鹿島 繭 (短期大学部准教授)
工藤恒子 (外部委嘱委員)
見城美子 (外部委嘱委員)
谷口秀子 (外部委嘱委員)
遠藤九郎 (事務職員/110周年記念事業調査役)
内藤幸江 (事務職員/歴史資料室室長)

情報提供・ご寄贈のお願い

女子美術大学歴史資料室では本学の歴史・教育内容を伝える資料について収集を行っております。資料の収集につきまして皆様方のご協力をいただければ幸いです。特に、1960年代以前の資料について重点的に収集・調査を行っております。1960年代以前の教材、教員との写真などをお持ちでご寄贈いただける方、または情報をご提供いただける方は、女子美術大学歴史資料室までご連絡くださいますようお願い申し上げます。

表紙写真

私立女子美術学校 菊坂校舎
明治42年(1909)7月

明治41年(1908)10月、私立女子美術学校の最初の校舎である本郷弓町校舎が火災のため焼失した。同年12月には同じ本郷の菊坂町に新校舎の建築を開始。翌年4月にはほぼ完成した3階建ての新校舎で卒業式・記念展覧会を行った。

TEXNH MAKPA 第3号

テクネ・マクラ 「芸術は永し」

女子美術大学歴史資料室ニュースレター
発行日：2012年1月10日
編集・発行：女子美術大学歴史資料室
デザイン：竹田奈那子
制作・印刷：(株)日相印刷

〒252-8538 神奈川県相模原市南区麻溝台1900 女子美術大学3号館4階

TEL：042-778-6754 FAX：042-778-6675

E-mail：heritage@venus.joshibi.jp



学校法人
女子美術大学